

私たちは「虐待ゼロへ いのちにハグを。とちぎ」を応援します

 **藤井産業株式会社**  **栃木トヨペット**

 **フタバ食品株式会社**  **文星芸術大学附属高等学校**

 **一般社団法人 栃木県トラック協会**  **NTT東日本 栃木支店**

 **TOYOTA WOODYOU HOME** **(株)ドコモCS 栃木支店**

 **宇都宮駅前 比企クリニック**  **明光義塾**  **栃木県生活協同組合連合会**  **晋豊建設**

 **街と人を、もっと笑顔に。 KSK環境整備**  **富島醤油株式会社**  **SUPER XEBIO**

医療法人くろさきこどもクリニック、学校法人木嶋学園 みゆき幼稚園、
学校法人真照寺学園 認定こども園 くにや幼稚園、学校法人鹿沼幼稚園、
輪王寺附属日光幼稚園、認定こども園 西那須野幼稚園、認定こども園 黒磯幼稚園、
学校法人ペスタロッツ学院 太陽幼稚園、認定こども園 栃木幼稚園、
認定こども園 若葉幼稚園、認定こども園 愛泉幼稚園、八幡台認定こども園、
認定こども園 ふたば幼稚園、学校法人沼田学園 恵光幼稚園、
学校法人壬生学園 おもちゃのまち幼稚園、認定こども園 マロニエ幼稚園、
学校法人妙音寺学園 認定こども園 育成館幼稚園、みふみ認定こども園、
認定こども園 まこと幼稚園、うつのみやこども園 石川幼稚園、
学校法人やまざき学園 認定こども園 金井台幼稚園、
学校法人むつみ学園 認定こども園 むつみこども園、認定こども園 アルス幼稚園、
認定こども園 たから幼稚園、学校法人いのせ学園 やしお幼稚園〈順不同〉

いのちにハグを。サポーター

カンガルーOYAMA 会長 大久保幸子、立正大学 教授 大竹智、
子ども虐待防止ネットワークとちぎ 代表 福田雅章、
栃木フォスタリングセンター 代表理事 畠山憲夫、歌う海賊団ッ!
NPO法人 レインボー 代表理事 宮田里枝〈順不同・敬称略〉

企画監修



栃木県



TOCHIGI POLICE
栃木県警察



NPO法人レインボー
代表理事

宮田 里枝さん

宇都宮市出身。3児のママ。子育てからはじまる親活動に興味を持ち、“子連れでもやってみよう”に挑戦。嫁ぎ先の鹿沼市で2007年より子育てをベースにサークル活動やNPO法人活動を展開。特技は「笑顔で巷を巻き込んでいくこと」。「この地(嫁ぎ先の鹿沼)で子育てできて良かった!」を目標に奮闘中。

「NPO法人レインボー」は、子ども同士のふれあいや親子参加活動、ママたちの交流会など、ママと子どもが笑顔になれる活動を行っている団体です。行政や児童福祉施設が提供する子育て支援サービスと大きく違うのは、子育てをしている保護者が自然に集い、子育て支援を目的としたさまざまな活動を展開している点。

私たちに、どんなことができるのだろう

仲間と子どもたちがいたから今がある

現在会員は0歳児から成人

した子どもを持つママと、活動を資金面で応援する賛助会員を合わせて56人。今年6月には、鹿沼市文化活動交流館内のカフェで、毎週火曜日にママたちの手作りメニューを提供する活動もスタートさせました。

「活動のきっかけは一人の保育士さんとの出会いでした。私自身、鹿沼市に嫁いできて周りに友人も仲間

もないゼロの状況で、子育てには大きな不安がありました。2009年に保育士さんと一緒にママたちのサークルを立ち上げたとき、みんな同じように悩みながら子育てをしていると分かり、大きな安心感を得ました。地域にママたちが集まれる場があり、仲間と子どもたちがいたから、ここまで子育てをしてこれたと感じています」と発足当初を振り返る宮田さん。

ママと子どもと一緒にイベント等に参加することからスタートし、自分たちで学習会や季節行事等を企画運営する活動へと発展。自然に、自分たちが楽しむだけ

ではなく、子育て中のママをサポートする活動へと変化しました。

宮田さんが続けてきたのは、「ママにとって居心地の良い場所を作ること」と、「みんなの『やりたい』という願いを叶えること」。あえて「児童虐待防止」という言葉を使わなくても、同じママとしてママに寄り添うレインボーの活動は子育てに悩む保護者の孤立化を防ぎ、家庭を地域に開くことにつながっています。

「子育てをする中で、虐待につながるような場面は誰にでもあります。一生懸命に子育てをしているからこそ、視野が狭くなってしまうんです。私も3人の子どもを育ててきて、未だに『虐待しているかも』と不安になることがあります。でも、巡り合えた仲間たちと共に自分の時間を楽しみ、精神的にリフレッシュすることで、自分自身を客観視して大切なことに気付けるようになりました。鹿沼で子育てをしてきて良かった、その思いを次の世代のママたちにつないで、活動の輪を広げていきたいと笑顔で話します。

「児童虐待かも…」と思ったら、すぐにお電話ください
無料 ※一部のIP電話からはつながりません

児童相談所
虐待対応
ダイヤル

いちはやく
189

子どもへの虐待のない社会を目指して

下野新聞

子ども虐待防止啓発キャンペーン

虐待ゼロへ

いのちに
ハグを。

とちぎ

section 12

企画・制作 下野新聞社営業局
企画監修 栃木県
栃木県警察本部

誰でも子育ての難しさや辛さを感じるときがある。子どもとどう接すればいいのか不安を感じることがある。だからこそ、ママ同士がつながり、楽しんだり悩みを共有する場が必要。そんな思いを胸に周囲を巻き込み、子育て支援活動を継続する宮田里枝さん。彼女の周りはいつも笑顔と涙があふれています。